



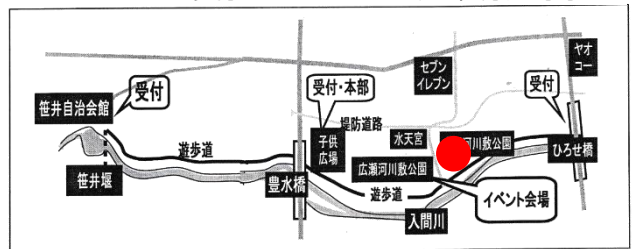
水富地区会
屋台出店メニューは

玉こんにゃくとくるみ味噌おでん

10月2日(日)水富自治会連合会主催の「ウォーキングフェスティバル」に、さやま楽友会水富地区会有志が屋台を出店します。9月17日には、有志5名が集まり、「試食会」も行いました。両メニューとも大好評。「これなら売れる!」「すぐ売り切れじゃない?」とワイワイガヤガヤ。普段あまり顔を合わせないメンバーもすぐに仲間になりました。当日は、広瀬河川敷公園「公園事務所」下のサッカー場でにぎやかにお店を出します。

午前10時から販売開始、午後2時終了ですが、売り切れ次第閉店します。入間川沿いを散歩したついでに楽友会屋台にぜひお立ち寄りください。他の地区の方も大歓迎です。駐車場はいっぱいになる可能性が高いので(内緒の話……)ヤオコー広瀬店に車を置いて、広瀬橋下から笹井に向かって歩いて来られることをお勧めします。

イベント受付とイベント会場案内図



※さやま楽友会水富地区会の屋台は、赤●のあたりに出店します。

SC写真クラブ創部20周年記念写真展終わる

当クラブは2003年にSSCC同窓会部会の一員として、趣味を同じくする仲間同士親睦と健康の増進を図り、習得した成果を地域の発展に寄与する事を目的として誕生しました。一泊旅行の震えながらの早朝撮影、日帰りでの思わぬ出会い、一杯飲みながらの楽しいおしゃべり等、仲間と切磋琢磨しながら腕を磨き、公民館文化祭や写真展の定期開催をしてきました。今般創部20年を迎え、記念の写真展を開催する運びとなり、市民交流センター1階コミュニティホールに、会員の70作品と講師の1作品、計71作品を展示しました。9月13日(火)から17日(土)までの5日間で、432名の方にご覧いただきました。会員も既に最高齢88歳、平均年齢78歳となりました。撮影もままならぬ日を迎えておりますが、カメラを生涯の友として足腰が動く限り写真を楽しみたいと思っております。



理事会報告

第47回理事会 2022年9月20日

3つの委員会の進捗状況報告から会が始まりました。地区活動推進委員会からは、ウォーキングフェスティバルの屋台出店の他、お茶飲み会、コンサート開催などのアイディアが出されました。連絡があったら是非ご参加ください。クラブ活動推進委員会では、Newsや楽友会ホームページを使って各クラブの活動内容の見える化を目指しています。広報委員会では、ホームページのリニューアルに取り組んでいます。「地区活動の中でクラブを紹介したらどうだろう」「コロナで活動停止でしたが再開。是非会員に紹介したい」「3つの委員会がうまく関わり合って動いていくと、楽友会の活動をうまく会員に伝えられ、活力が出てくるのではないかな」等々、建設的な意見がたくさん出されました。これからが楽しみです。

● 『俘虜記』を読んだ終戦記念日 ●

8月15日、戦没者追悼式典のテレビ中継を見ているうちに、77年前の光景がぼんやり浮かんできた。両親の虚ろな表情、悲しみに堪えるやる瀬ない姿が蘇ってくる。儂い思い出を回想するうちに、『終戦に相応しい本があったら読んでみたい』との思いが頭の中を駆け巡った。手にしたのは大岡昇平著『俘虜記』。著者が1等兵として太平洋戦争に従事した体験に基づいた小説である。フィリピンの戦線で隊からはぐれ、山中を彷徨しながら死に直面、水を渴望する姿が鮮明に描かれている。自殺を考えた絶望的な状況下、更に追い打ちをかけるようにマラリアに感染する。病魔に苦闘する中、幼さの残る若い米兵と遭遇する。数日後、日本軍は降伏。捕虜となった著者は収容所の住人となる。米兵から清潔な住居と食事、衣服やタバコなどが与えられた。雑多な捕虜が集められた収容所は、人間的機能を持ち合わせていなくとも生きられる特殊な社会を作り出した。閉じられた空間に『エゴイズム』がはびこっていく。老生にはあまりにも残酷過ぎる物語であった。読み終わり、令和4年の終戦記念日はこれまでとは随分違う、意義ある日となったと思った。

『侵略』『核』『戦争』の活字が目につく今日この頃。終戦後77年の長きにわたって戦争のない平和な時代を築いて来たが、今、戦争が始まる事もあり得るという不穏な空気が流れている。米国の核の下で悠悠閑閑と暮らす平和ボケの私達は、ロシアによるウクライナ侵攻によって世界の安全保障環境は極めて厳しいことを思い知らされた。終戦記念日は、太平洋戦争を回想し、戦没者を追悼するだけでは済まなくなった。大岡昇平が生存していたなら、ロシアに対してこう言うであろう。『自制を失くした集団は、驚くほど非道な行為に手を染めていく…』と！この半年間、ロシア兵を通して人間の醜悪な面を嫌と言うほど目にして来た。死の恐怖と隣り合わせて暮らしているウクライナの人達を見る度に、怒りと恐怖を覚える。ウクライナを侵略しているロシア軍の戦死者の大半は、少数民族や地方出身者だという。大都市圏出身のスラブ系モスクワ人の犠牲者が極めて少ないことが、反戦機運が高まらず、侵略戦争に対して無関心の人や肯定する人たちが多い要因でもあるという。ロシアには著しい不公平や理不尽が蔓延している。『戦争とは集団を持っての暴力行為であり、集団の意識が個人の行動を制約し鼓舞するもの』だと大岡昇平は俘虜記で記している。俘虜記を読むまで、冗談とは言いながら、『コロナ戦争に打ち勝とう』『今は戦時だ』などと公言していた老生の思慮の浅さに悔いを感じた。と同時に『いかなる場合でも惨い争いはすべきではない』との大岡昇平の言葉が頭の中を過ぎる。よ



(中嶋亨さん)

❖ お知らせ ❖

※ 楽友会後援の講演会。どちらも無料です。

被害者支援を考える講演会

日時：22年11月19日（土）午後1時30分～

場所：狭山市市民交流センター

主催：犯罪被害者等支援の会「オリーブ」

第1部 基調講演「犯罪被害者遺族として」

第2部 所沢マンドリンクラブ演奏

《 問い合わせ先 》

佐藤咲子さん 090-8331-8935

…詳しくは[今号添付チラシ](#)をご覧ください。

山本凜太郎「狂言」講演会

日時：22年11月25日（金）午後2時30分～

場所：狭山市入曽地域交流センター

主催：狂言入間川を観る会

演題 「若き狂言師の挑戦」

《 問い合わせ先 》

鈴木強さん ☎：04-2952-8617

✉：tutujino@olive.ocn.ne.jp

…詳しくは[次号にチラシ](#)を添付します。